

Rev.1

**SCREEN**

# Truepress Jet L350UV+

Version 2.40EQ003

Version 2.40JD003

Version 2.40TP003

Release Notice

日本語

# 項目

---

1 はじめに .....	3
2 新機能と変更点 .....	4
3 不具合修正 .....	9
4 制限事項 .....	10
5 運用上の注意事項（仕様） .....	12
6 演算互換性 .....	26
7 インストール前提条件 .....	27

# 1 はじめに

---

## Version 2.40EQ003、JD003、TP003について

このリリースノートではVer.2.40での変更内容を記載しています。

このバージョンでは以下の構成での動作を保証しています。

EQUIOS Version 2.40EQ003

プリンタコントローラ Version 2.40JD003

Truepress Jet L350UV Firmware Version 2.40TP003

## 2 新機能と変更点

「★」は、EQ003、JD003、TP003の追加記載分です。

### <全体>

- 加減速印刷  
チルローラーオプションが接続されている機器にて加減速印刷が行えるようになりました。  
尚、加減速中および低速印刷の品質は保証外です。

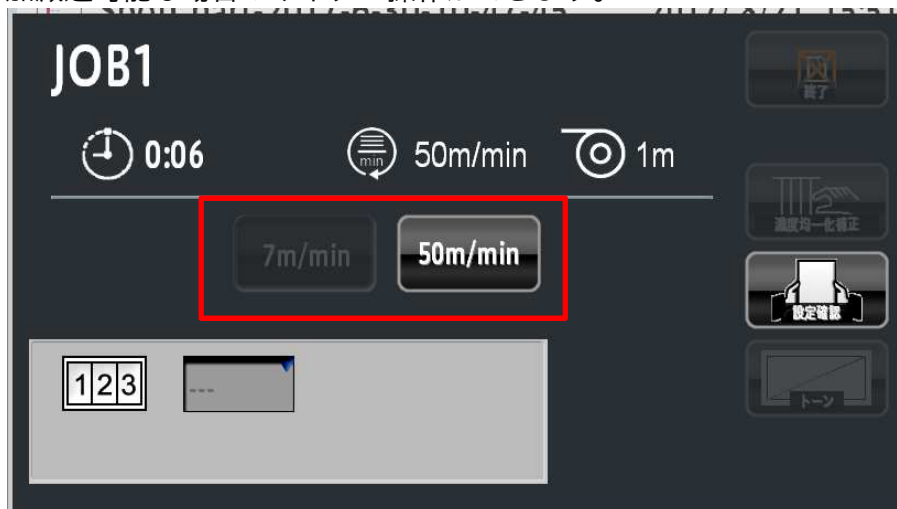
加減速印刷を行う場合は以下の手順にて実施してください。



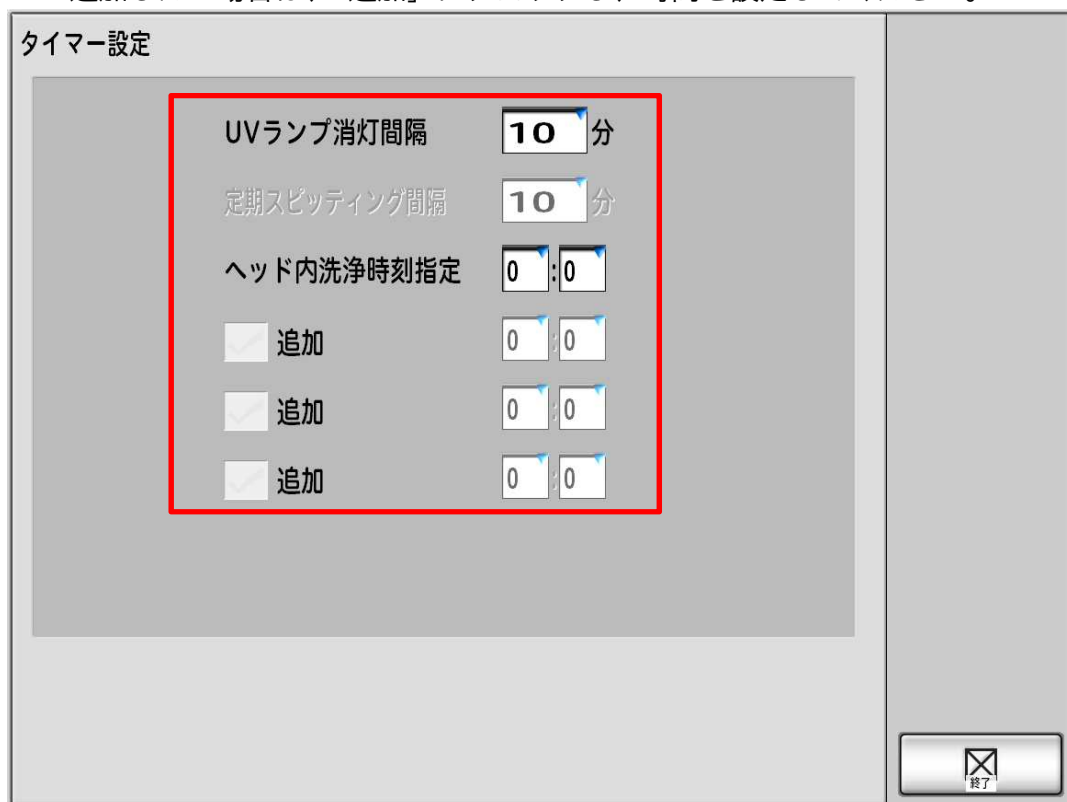
- 「環境設定」にて加減速の設定を行います。
  - ◇ 加減速印刷を行う場合は、「加減速印刷を使用する」にチェックします。
  - ◇ ジョブ印刷開始時の印刷を低速で行う場合は、「7m/minで印刷を開始する」にチェックします。
  - ◇ 高速印刷と加減速中の印刷の切り替わり部分に白紙ページを挿入する場合は、「白紙ページを挿入する」にチェックします。

設定後「閉じる」ボタンで画面を閉じてください。

- 2) ジョブ印刷開始後にジョブ実行画面にて、加減速を行ってください。  
加減速可能な場合のみボタン操作ができます。



- タイマー画面
  1. 「環境設定」画面から以下の設定をTimer画面に移動しました。
    - ✧ UVランプ消灯間隔
    - ✧ 定期スピitting間隔
    - ✧ ヘッド内洗浄時刻指定
  2. 「ヘッド内洗浄時刻指定」の設定を最大4回の設定を行えるようにしました。  
追加したい場合は、「追加」にチェックし、時間を設定してください。



※時間は「0:00」から「0:09」は設定できません。

※また、「ヘッド内洗浄時刻指定」の時間と「追加」にチェックされた各時間は、15分以上の間隔をあけてください。

- 60m/min印刷対応  
60m/minオプションにて60m/minでの印刷が行える様になりました。
- ★オレンジ対応  
オレンジインクを使用しての印刷に対応しました。
  - カラー変換時のオレンジ分解対応  
オレンジ分解機能に対応しました。オレンジ用のプロファイルを用いて、CMYKOに色変換します。
  - メディア管理ツール
    - オレンジ対応  
印刷条件管理画面の印刷条件リストにオレンジ出力カラムが表示されます。基本情報タブには印刷条件毎にオレンジ出力設定が表示されます。
    - オレンジプロファイル設定対応  
印刷条件管理画面のインポートボタンから、オレンジを使用する印刷設定に対し、オレンジプロファイルをインポートできるように対応しました。オレンジプロファイルには既存のプロファイルアイコンの右横にオレンジアイコンが表示されます。リストから選択ボタンで表示されるプロファイル登録リストには、設定可能なプロファイルのみを表示するように対応しました。オレンジを使用する印刷設定を選択している場合はオレンジプロファイルのみが表示されます。オレンジを使用しない印刷設定を選択している場合には通常プロファイルもしくは光沢優先プロファイルが表示されます。
    - オレンジプロファイル管理対応  
プロファイル管理画面で、オレンジプロファイルに対し既存のプロファイルアイコンの右横にオレンジアイコンが表示されるように対応しました。また、多色情報を表示するためのカラムを追加しました。オレンジプロファイルの場合は"Orange"と表示されます。
    - オレンジプロファイルエクスポート対応  
プロファイル管理画面のエクスポートボタンで、オレンジプロファイルが選択されている際にオレンジ情報を保持したままプロファイルをエクスポートするよう対応しました。  
オレンジプロファイルをエクスポートし、再度印刷条件管理画面でインポートすると、オレンジプロファイルとして登録されます。
    - オレンジプロファイルビルド対応  
オレンジプロファイルのビルドに対応しました。StandardまたはAdvanceモードの測色画面でオレンジを使用するICCチャートの印刷ログIDを入力し測色・ビルドを行うと、オレンジプロファイルとして登録されます。
  - ProfileEditor、SpotEditor

- オレンジ変換時の特色の擬似色値は、CMYKOの5色で指定されます。
- オレンジプロファイル作成用チャートデータ  
オレンジ出力の際に使用するi1Profiler用のチャートデータを下記に同梱しています。必要に応じてご利用ください。

<保存場所>

EquiosCenter\server\proc\data\SampleData\ICCChart\Truepress JstL350UV\FforOrange

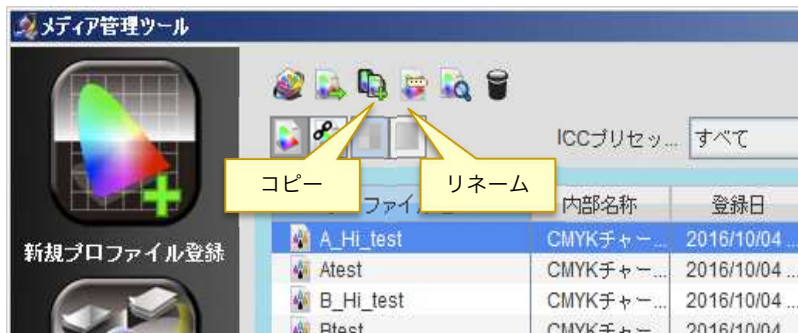
基材サイズに合わせて、3サイズのチャートを準備しています。

- バンドルプロファイル  
オレンジ出力用の以下のプロファイルを追加しました。

L350_06O_Semi-glossPaper_220B_R1	オレンジ用のプロファイル 印刷モード"標準"用 白なし基材 (グロスペーパー)
L350_06OV_Semi-glossPaper_220B_R1	オレンジ用のプロファイル 印刷モード"広色域"用 白なし基材 (グロスペーパー)
L350_06OW_Clear-Film_220B_R1	オレンジ用のプロファイル 印刷モード"標準_白"用 白あり基材 (クリアフィルム)
L350_06OVW_Clear-Film_220B_R1	オレンジ用のプロファイル 印刷モード"広色域_白"用 白あり基材 (クリアフィルム)

### <EQUIOS>

- メディア管理ツールのプロファイルコピー・リネーム機能  
メディア管理ツールのプロファイル管理画面の左上にコピーとリネームボタンを追加しました。リストで選択したプロファイルに対しコピー/リネームを行います。



- 入力処理 コアライブラリの更新  
入力処理コアライブラリ (PDFL、Pitstop) を更新しました。
- 演算モジュール コアライブラリの更新  
演算処理コアライブラリを更新しました。  
更新に伴いProofPDFのバージョンを3.00に変更しています。
- RIPキャッシュ機能の制御の追加  
RIP設定にRIPキャッシュを制御するチェックボックスを追加しました。

チェックボックスにチェックを入れると、再利用部品をキャッシュし、高速にRIP処理を行います。

- フォント記述上の軽微な不正がある場合の処理の改善  
システム設定ツール「詳細設定-演算処理」の以下のキーに"0"を指定した場合の動作を改善しました。この改善によりヒント情報の軽微な不正については、エラー終了しなくなりました。

キー：\*\*BESTEFFORT\_FOR\_FONT

値：0= エラー終了する（デフォルト）

1= 出力する - 警告

2= 出力する - インフォメーション

- ワイドガモットにおける墨単色部品のノセが再現  
以下の全ての条件を満たす場合、墨単色部品のノセ再現が有効になります。
  - ◇ システム設定のキー JPPE\_WG\_OP\_SCR\_PUREBLACK が1(ノセ) である (デフォルトは0(ヌキ))
  - ◇ セクション設定の「ターゲットプロファイルに変換する」のチェックが OFF である
  - ◇ 入力カラー設定のテキスト/イラストデータのCMYK カラー変換に墨単色保存を指定している
  - ◇ RIP 設定の「色合成時のシミュレーション」のチェックをON である

#### <コントローラ部>

- バージョン情報の更新  
バージョン情報を「JD2 4.00.030.3.1」に変更しました。

#### <プリンター部>

# 3 不具合修正

---

## <EQUIOS>

- マルチページのPDFを入力すると800120/PDF分割処理エラーが発生する不具合を修正しました。
- 入力処理にて分割処理エラーが発生する不具合を修正しました。
- 文字の一部にスジが入る不具合の修正  
RIP 設定の「RIP キャッシュ」のチェックがオンの場合、文字の一部にスジがはいる不具合を修正しました。
- クリップされた罫線が消える不具合  
RIP 設定の「線幅調整」が「する」の場合、クリップされた罫線が描画されない不具合を修正しました。
- パターン部品にスジが発生する不具合を修正  
画像を含むパターン部品のタイル境界でスジが発生する不具合を修正しました。
- DeviceNの特色を制御版にするとオーバープリントが無効になる不具合を修正  
DeviceN で定義された特色を制御版に指定すると、オーバープリントが無効になる不具合を修正しました。
- ワイドガモット時にイメージマスク部品のノセが再現されない問題  
以下の全ての条件を満たす場合、イメージマスク部品のノセが再現されない問題を修正しました。
  - ◇ セクション設定の「ターゲットプロファイルに変換する」のチェックがOFFである
  - ◇ 入力カラー設定のテキスト/イラストデータのCMYK カラー変換に墨ベタまたは一次色保存を指定している
  - ◇ RIP 設定の「色合成時のシミュレーション」のチェックをON である
  - ◇ 入稿PDF内の共有されたイメージマスクに対してノセ再現対象となる色値（墨ベタ、または一次色）が指定される場合とそうでない色値が指定される場合が混在して記述されている

## <コントローラ部>

## <プリンター部>

# 4 制限事項

---

「★」は、今回の追加記載分です。

## <全体>

- インク消費量、印刷の使用基材量  
少数で連続印刷を行った場合、インク消費量、印刷で使用した基材量の値が1つ1つのジョブでは正しくない場合があります。ただし、連続印刷を行ったジョブでの合計は正しい値となります。
  - ・ EQUIOS Centerの実績通知
  - ・ コントローラのログ
  - ・ TRUST GUARDログ

## <EQUIOS>

- ジョブ削除時のログについて  
コントローラ上でジョブを削除しても、EQUIOS のジョブチケット上の操作ログ欄に削除履歴が記録されない場合があります。  
印刷作業等の他処理への影響はありませんが、EQUIOS 側のログからコントローラ上のジョブが存在しているか追跡できませんのでご注意ください。  
(コントローラ側のジョブログには削除履歴が記録されます。)
- 「RIP設定」の仕上がり設定での回転指示について  
仕上がり設定で「回転」を「0°」以外指定しないでください。「0°」以外を指定すると余白なども含めて回転します。また、仕上がり設定で「90°」、「270°」を指定すると、ページ送りサイズと用紙幅が逆転したサイズでRIPされます。
- アクションプラン画面にて、台割りインポート操作をキャンセルした場合は、必ず台割りの再インポートを行ってください。行わなかった場合は不正なジョブになってしまう場合があります。
- ICCプロファイル名および、そのファイル名には「%」を使用しないで下さい。使用した場合、Profile Editorで紙面最終確認に失敗します。
- セクション設定の「ターゲットプロファイルに変換する」が「ON」、プリンターのカラー変換の「変換方法」が「デバイスリンク」のジョブでProofPDFの「ICCプロファイルを埋め込む」をONにしないでください。ONにすると間違ったICCプロファイル（ターゲットプロファイル）が埋め込まれてしまいます。
- アウトライン文字細らせについて  
RGBデータはアウトライン文字細らせできません。CMYKデータを用意してください。もしくは以下の設定を行い、入力処理でCMYK変換を実施してください。
  - ・ [セクション設定]の[ターゲットプロファイルに変換する]チェックをONにする。
  - ・ 入力処理の[入力ファイルの設定を優先する]チェックをOFFにする。
- 串刺し面付け使用時の出力操作に関する注意点  
串刺し面付けを使用して出力指示を行う場合は、ジョブ一覧画面から出力指示を

行ってください。ジョブ詳細画面からの出力指示は使用できません。

- ★オレンジ用のデバイスリンク  
オレンジ変換用のデバイスリンクは非サポートです。
- ★オレンジ、且つワイドガモット時の色変換オプション  
オレンジ、且つワイドガモット時に、特色の透明効果やオーバープリントが指定された部位は色変換のオプションが効かない場合があります。
- ★オレンジ変換時のProofPDF  
オレンジ出力は、以下の留意事項があります。
  - ・ Orange(Process)という版名で出力されます。
  - ・ ProofPDFへのICCプロファイルの埋め込みを指定した場合も埋め込みはできません。
- ★オレンジ変換時の光沢優先機能について  
オレンジ出力機能と光沢優先機能とを同時に使用することができません。
- ★RIPキャッシュ時のBlack版バリエーションについて  
ジョブのRIP設定のRIPキャッシュにチェックが入っていると、データにより稀にバリエーション部分が描画されない場合があります。Black版バリエーション出力時は、ProofPDF、またはプリンタコントローラのレイアウト画面にてバリエーション部分が描画されている事を確認してください。バリエーション部分が描画されていない場合は、RIPキャッシュのチェックを外し、再度RIPする事でバリエーション部分が描画されます。

#### <コントローラ部>

- チャート印刷  
ICCプロファイル作成用のチャートで「EQUIOS Standard」を印刷する場合は、基材幅が狭い場合に出力できません。  
250mm幅以上の基材に出力してください。
- 印刷開始直後にインクタンクの蓋を開けないでください  
印刷開始ボタンを押した直後の「ジョブ登録中」ダイログ表示中にインクタンクの蓋を開けると、処理が中止されますので、ダイログ表示中には蓋を開けないようにしてください。処理が中止された場合は、再度、印刷開始ボタンを押して印刷を行ってください。
- 印刷残時間表示  
連続印刷の場合、印刷実行時に表示される印刷残時間が正しくない場合があります。  
連続印刷対象ジョブ選択時に表示されるマーカー内の時間を参考にしてください。

#### <プリンター部>

- 調整印刷（ドット抜けチェックや印刷濃度管理）実行時の停止位置がずれる場合があります。
- エラー初期化後の印刷で下記エラーが発生する場合があります。再度初期化を実行してください。  
400B-108E プリンター内部エラー
- 初期化後や印刷中止後、下記エラーが発生する場合があります。初期化を実行してください。  
4001-021E プリンター内部エラー

# 5 運用上の注意事項（仕様）

---

「★」は、今回の追加記載分です。

## <全体>

- 定期スピitting間隔  
定期スピitting間隔を変更後、プリンター本体の電源をOFF/ONを行ってください。電源OFF/ONを行わない場合は、変更前の間隔でスピittingを行います。
- 連続印刷について  
連続印刷が行える最大ジョブ数は64です。ジョブの容量により、連続印刷を行うジョブ数が変わりますので、ジョブリスト画面にて連続印刷の対象となるジョブをマーカーにて確認してください。
- 基材搬送の距離指定について  
基材搬送画面にて距離を「0」に設定することにより、中止指示を行うまで搬送を行います。
- Black版バリエーションについて  
Black版バリエーションは連続印刷ができません。  
また、バリエーション部と重なる背景部は、印字率100%以下としてください。  
印字率が高いと重なった部分の印字率が220%を超え、印刷不良となる場合があります。

## <EQUIOS>

- ジョブの自動削除機能について  
ジョブの「オプション」メニューで「自動削除を行う」チェックボックスがON、かつ、基準日が「作成日時」となっているジョブをバックアップ後、リストアした場合、「自動削除を行う」チェックボックスは自動的にOFFに書き換えられます。また、基準日が「納期」となっているジョブをバックアップ後、リストアした場合は「納期」の値が未設定に書き換えられます。これは、リストア後に直ちにジョブが削除されてしまうことを回避するための仕様です。
- 印刷設定の既存ジョブ、ジョブテンプレートへの適用について  
コントローラで印刷設定を変更すると、メディア管理ツールの基本情報やEQUIOSの既存ジョブテンプレートの情報も更新されます。但し、既存のジョブは更新されませんので、ジョブに適用するためには、再保存が必要となります。特に用紙幅などを変更した場合は台割りの設定を十分確認してください。
- セットアップの変更
  - 1) Pattern図形の位置調整を行う：演算処理(PdfRip\_setup.txt)  
デフォルトでは、パターンの位置調整を無効にするように設定されています。PDFの指定に従いパターン図形の位置調整を行う場合は、このキーを0に変更してください。

```
//[IGNORE_PATTERN_TILING] 値の範囲:0,1
// Pattern図形の位置調整を行う。
// 0:行う
// 1:行わない(デフォルト)
**IGNORE_PATTERN_TILING:"1"
```

- 2) ファイルサイズ制限によるエラーチェック：入力処理 (Import\_setup.txt)  
 高速/編集モードともにファイルサイズを4 GByteで入稿が制限されています。制限を変更する場合は、下記のキーの制限値を変更してください。

- ・高速モード

```
//[MAX_INPUTFILE_SIZE_FAST] 値の範囲:なし
// 高速モードの入力ファイルサイズ上限値 (単位:MB)
**MAX_INPUTFILE_SIZE_FAST:"4096"
```

- ・編集モード

```
//[MAX_INPUTFILE_SIZE_EDIT] 値の範囲:なし
// 編集モードの入力ファイルサイズ上限値 (単位:MB)
**MAX_INPUTFILE_SIZE_EDIT:"4096"
```

- 墨ベタ保存機能使用時の注意事項

墨ベタ保存は、K=100%を保持する特殊処理を行っているため、K=100%を含むグラデーションデータでは、色の段差が発生します。発生時には、入稿データの見直しを行うか、墨ベタ保存オプション：OFFで回避できます。但し、墨ベタ保存をOFFするとK=100%の文字などもCMYKに分色されますので、同時に墨単色保存：ONすることで分色を回避できる場合もありますので、設定をご確認ください。

- 印刷無効領域の扱いに関する注意事項

- ・ 面付けレイアウト時の印刷無効領域の変更：ジョブ処理制御のパラメータ (EQ\_JobSetup.txt)

デフォルトでは印刷無効領域を考慮してページを配置する設定となっています。入稿するPDFが印刷無効領域を含むデータの場合には、このキーを”1”に変更してください。

```
//[IGNORE_PRINTER_BLANK_SPACE_AT_IMPOSITION] 値の範囲:0,1
// 面付けレイアウト時、プリンターの印刷無効領域を無視するかどうか
// 0:無視しない(デフォルト)
// 1:無視する
** IGNORE_PRINTER_BLANK_SPACE_AT_IMPOSITION:"0"
```

- ・ 印刷無効領域の無視する/無視しないの設定を変更した場合、既存のジョブ/ジョブテンプレートへは設定が反映されません。反映したい場合は、ジョブを再作成してください。ジョブテンプレートは、下記の手順で台割りの再設定を行うことで反映が可能です。

**【台割りタイプ”なし”の場合】**

1. ジョブテンプレートを編集する。
2. 台割りタイプを「なし」→「通常」→「なし」の順で切り替える。
3. ジョブテンプレートを保存する。

**【台割りタイプ”通常”の場合】**

1. ジョブテンプレートを編集する。

2. 台割り編集画面を表示し、編集画面の[OK]ボタンをクリックする。
  3. ジョブテンプレートを保存する。
- 印刷無効領域を「無視しない」設定で運用される場合、台割りの作成はアクションプラン画面内から行ってください。  
台割り管理画面から作成すると無効領域が表示されないため、ジョブ/ジョブテンプレートで使用する際に想定する位置にページが貼りこまれない場合があります。
  - ProofPDF出力時の出力領域について  
ProofPDF出力時の出力領域は  
IGNORE\_PRINTER\_BLANK\_SPACE\_AT\_IMPOSITION  
の設定値によって異なります。  
設定値が"0"の場合は、印刷有効領域でクリップされた領域で出力します。  
設定値が"1"の場合は、左端のみ無効領域を除いた領域で出力します。
  - メディア管理ツールのプロファイル作成機能の留意点
    - 品質について  
以下の条件で作成したICCプロファイルはトーンジャンプなど品質上の問題が発生する場合があります。使用時には品質をよくお確かめの上、使用してください。
      - 最大インク量を160%未満で作成する場合
      - 印刷機で、濃度均一化、段差補正など正しく調整されていない場合
      - プロファイル作成用のチャートの状態が悪い場合（退色、よごれ）
    - プロファイルの作成時間  
プロファイルの作成時間は10分程度かかります。作成中は、進捗バーが止まった状態になりますが、しばらくお待ちください。
  - 付属のCMYKカラーチャートPDFについて  
フォルダー「EquiosCenter\proc\data\SamplePDF」にインストールされるCMYKカラーチャートPDF「TPJ-L350UV\_colorchart.pdf」は、ページ数が多いため一度に印刷できませんので、フォルダー「EquiosCenter\proc\data\SamplePDF\TPJ-L350UV\_colorchart for print」に入っている8個のPDFを順に印刷するようにしてください。  
これらは「TPJ-L350UV\_colorchart.pdf」と同じ内容で、印刷用に分割されたPDFです。
  - システムの特色上限数を超えている場合入稿データを使用して出力処理を行った場合、エラーイベントは発生するが、プロセスジョブは終了しません。このような場合は、進捗画面にて該当するプロセスジョブを中止してください。
  - 入稿データが処理されない場合があります。  
ごく稀に入力処理が実行されない場合があります。  
※お手数ですが、現象が発生したらデータ回収にご協力をお願いします。
  - ホワイト版に関する注意事項
    - 入力処理エラーについて  
特色マッピングで設定した[ホワイト版]が入力データにない場合、入力処理でエラー終了します。ただし、表示OFFのレイヤーに[ホワイト版]の図形が存在する場合、[ホワイト版]は存在すると判定されエラー終了しません。

このエラーの詳細は、[入力処理（最新PDF処理）エラー]のレポートで入力データの特色情報が確認できます。

----（例）----

(2)最適化...エラー

ホワイト版が入力データにありません。

ホワイト版：

WHITE\_SP

入力データの特色版名：

Green

Orange

- 
- ProfileEditorのホワイト版指定の留意事項  
ホワイト版指定は、入力設定および印刷条件で指定され、各々の指定の不一致の状態ではProfileEditor起動し、テスト印字や特色パッチ印刷などを行うと、白版が正常に出力されません。
  - 入力処理後に特色マッピングの設定を変更する場合  
入力処理後に特色マッピングのホワイト版、制御版の設定に誤りに気が付き、特色マッピングの設定を変更する場合は、データを再入力してください。
  - Black版バリエーションに関する注意事項
    - 入力処理エラー、Black版バリエーション[レイヤー方式]の場合  
入力データに@VARIABLE@レイヤーが存在しない場合または@VARIABLE@レイヤーの表示がOFFの場合は、入力処理はエラー終了します。
    - 入力処理エラー、Black版バリエーション[マージ方式]の場合  
入力データに@VARIABLE@レイヤーが存在する場合、入力処理はエラー終了します。  
入力データが1ページの場合、入力処理はエラー終了します。  
入力データの背景ページとバリエーションページのサイズが異なる場合、警告メッセージを出します。
    - バリエーション部品は [アウトライン文字細らせ処理] および [トラップ処理] されません。背景部品のみ処理します。
    - Black版バリエーションのカラー処理  
Black版バリエーションのデータは、以下のように処理されます。  
背景データ : EQUIOS指定のカラー変換  
バリエーションデータ : 墨単色で出力 (\*)  
\*バリエーションデータは、出力カラー設定で、墨単色保存機能をONにして処理します。
    - 出力カラー設定でICCプロファイルを使用する場合には、バリエーションデータのBlack版が保持されますが、デバイスリンクプロファイルを指定した場合には、Black版はデバイスリンクプロファイルに従って変換されます。そのため、Black版が保持されない場合があります。必ず、ICCプロファイルを利用するかBlack版を保持するデバイスリンクプロファイルをご利用ください。
    - オフセットシミュレーションで編集モードを使用する場合には、入力カラー設定の指定は、「通過処理」指定や「墨単色保存」を有効にするなどして、必ずBlack版を保持する設定にしてください。設定しないとBlack版データが保持されません。

- Black版バリエーションデータのジョブでProfileEditorを起動するとページ指定にかかわらず、必ず1ページ目の背景データでの調整となります。Black版バリエーションデータは含まれませんので注意してください。
- セクションタイプが[Black版バリエーション]かつEQUIOSの台割り機能を使用する場合、バリエーション部分が不足しているページの箇所には背景部分のみ印字されます。
- Black版バリエーションデータ作成時の留意点
  - 【マージ方式】の背景PDFを作成する場合は、Adobe InDesign PDF書き出しの設定で、「Acrobatレイヤーを作成」のチェックボックスをONにしてください。チェックボックスをOFFで作成した場合、1シート目のK版の印刷結果が不正になる場合があります。詳しくは「Black版バリエーションデータ作成運用マニュアル」の【マージ方式】データ作成方法、背景PDFの作成を参照してください。
- アウトライン文字細らせに関する注意事項
 

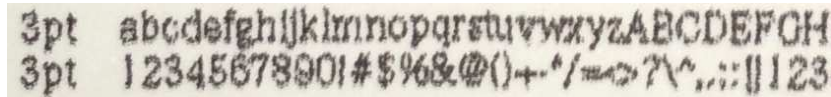
アウトライン文字の形状によっては、細らせ処理が失敗し、一部の文字が細らない場合があります。印刷結果を十分ご確認ください。
- 「高解像度で演算する」を有効にした場合の注意事項
 

「高解像度で演算する」を有効にして印刷した場合に、以下のような症状が発生することがあります。この機能を使用するときは、サンプル印刷を行い印刷物の品質をご確認ください。

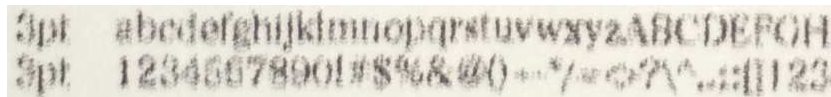
◇ この機能はアウトライン文字の太りを改善としたものですが、アウトライン文字以外の部分も若干細くなります。また、もともと細いフォントを使用した細かな文字は、かすれたように印刷されることがあります。

■印刷結果例

本機能を使用しなかった場合：



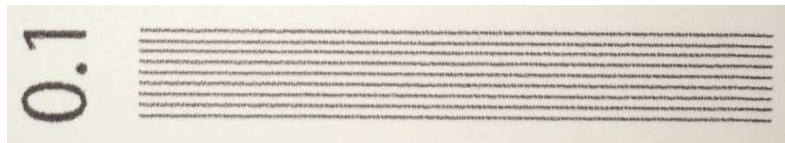
本機能を使用した場合：



◇ およそ0.2ポイント以下の細線が薄く印刷されることがあります。

■印刷結果例

本機能を使用しなかった場合：



本機能を使用した場合：



◇ 一部のバーコードで、印刷されたバーコードの読み取り精度が低下することがあります。

- ◇ セキュリティー印刷に対して、設計された図柄やコードを正しく印刷できなくなります。

また、この機能を使用すると、使用しない場合と比較して RIP 処理に必要な時間が長くなります。入稿データにも依存しますが、この機能を使用すると RIP 処理時間が数倍になることがあります。

- フォント記述上の軽微な不正がある場合の処理の改善  
システム設定ツール「詳細設定-演算処理」で BESTEFFORT\_FOR\_FONT の値を”1”または”2”に指定した場合の改善は、軽微なフォントフォーマットの不正に対応するもので、全てのフォントフォーマットの不正に対応できる訳ではありません。以下のインフォメーション、または警告が表示された場合は、必ず出力結果を確認してください。

「記述上に軽微な問題のあるフォントが発見されました。出力を確認して下さい。」

- 特色名「Gray」や「gray」の使用について  
特色名として「Gray」は内部処理としての予約語となっており、入稿されるデータに特色名「Gray」が含まれている場合、結果不正となります。小文字で始まる「gray」は、特色名として扱われますが、ファイル名として大文字小文字を同一視する OS 環境上で、混同の恐れがあり、同じく使用しないことをお勧めいたします。  
なお、この注意事項は以前のバージョンからあったもので、今回のバージョンに限らず留意が必要です。
- 共有画像のトランスファ関数について  
以下の条件を全て満たす場合に限り、画像に設定されたトランスファ関数が適切に使用されず、正しい出力結果を得る事ができません。[046014EQ]
  - PDF の同一ページ上で同じ画像を共有して複数回配置している。
  - 共有して配置した各画像に異なるトランスファ関数を設定している。
- フルカラーバリエーションの留意点
  - セクションタイプ「データに合わせる」の場合、「アウトライン文字細らせ処理」「トラップ処理」は機能しません。設定を有効にしても、処理はスキップされます。バリエーション部品がK版だけの場合でも同様に機能しません。必要に応じて「高解像度で演算する」をご使用ください。
  - Black版バリエーションのジョブ、ジョブテンプレートは使用できません。  
フルカラーバリエーション機に変更した場合、既存のBlack版バリエーションのジョブ、ジョブテンプレートは削除してください。
  - フルカラーバリエーション用のデータは通常のマルチページPDFが使用できます。高速に演算処理するために、データ作成では以下の点にご注意ください。
    - フォントをエンベッドする。
    - CMYKでデータを作成する。
    - 固定部品（バリエーションでは無い部品）は、XObjectで作成し再利用する。
    - 透明効果はデータ作成時に分割・統合する。

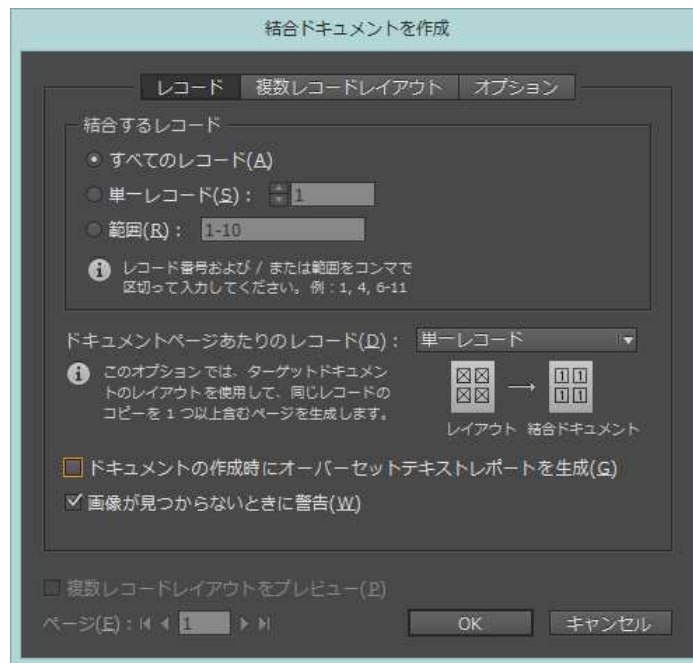
#### <Adobe InDesignのデータ結合で作成する場合の例>

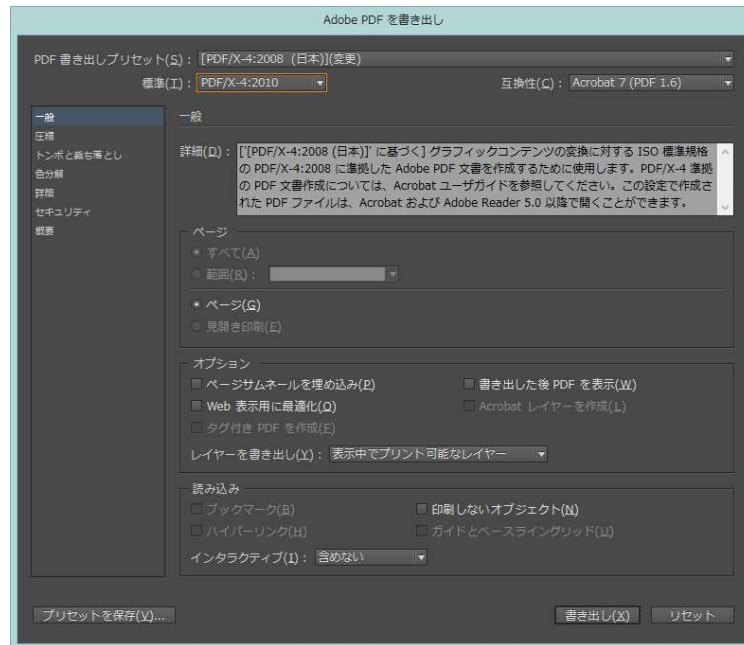
1. Adobe Illustratorで1ページの面付データを作成し、InDesignに配置しRecordSortTool\_Ver1.2.xlsmで作成したCSVファイルでデータ結合を行います。詳しくは「Black版バリエーションデータ作成運用マニュアル

ル」の「Sort mode Mode2の使用例」を参照してください。



2. 「データ結合」⇒「PDFに書き出し」を選択しPDFを作成します。





- ジョブ・ジョブテンプレートとメディア管理ツールの特色調整について  
特色プレビューは ICC 変換と光沢優先処理変換後の擬似色値で表示するため、ICC 変換後の値で表示する CMYK 色のプレビューと比較して精度が落ちる場合があります。
- ホワイト版の細らせる機能について  
ホワイト版の細らせによって、文字、細線、図形などの細部で印刷品質が低下する場合があります。また、ホワイト版が関係するバーコードでは、品質が低下するケースがあります。この機能を使用するときは、サンプル印刷を行い印刷物の品質をご確認ください。

この機能を使用すると、使用しない場合と比較して RIP 処理に必要な時間が長くなります。入稿データにも依存しますが、この機能を使用すると RIP 処理時間が数倍になることがあります。
- インストール直後にJDF接続設定ツールを起動するとコンボボックスが赤く表示される。

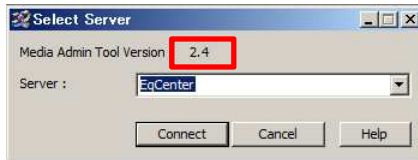
コンボボックスが赤く表示され、コンボボックスが空になるため、プリフライト用のチケットや台割りテンプレートを選ぶことができません。本問題が発生した場合は、EQUIOSクライアントを使って、プリフライトチケットの編集画面と台割りテンプレートの編集画面を開いてください。一度でも画面を開けば、本問題は発生しなくなります。

なお、赤く表示したままでも、デフォルトのチケット・台割りテンプレートが使われるため、MIS連携は正常動作します。



- 古いバージョンのメディア管理ツールで接続するとオレンジ情報が欠落する**  
 V2.4 より古いバージョンのメディア管理ツールを使って、V2.4 の EQUIOS に接続しないでください。接続した場合、メディア管理 DB 内で保持しているオレンジ出力情報が削除されてしまい、オレンジ出力用の印刷条件やプロファイルとして使うことができなくなります。これは、再度 V2.4 のメディア管理ツールで接続しても復旧できません。

※ メディア管理ツールのバージョンは起動時画面の以下の部分で確認できます。



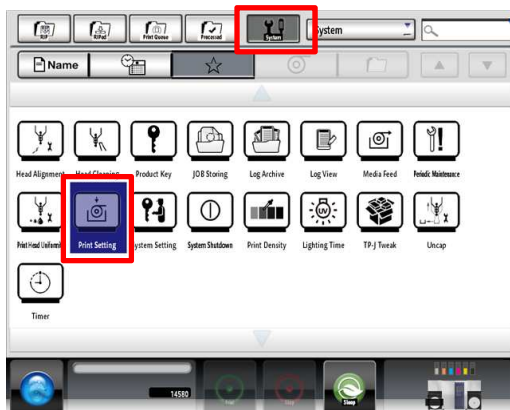
もし、古いバージョンで接続してしまった場合、以下の手順で修復が可能です。

#### <プロファイルのオレンジ出力情報の修復>

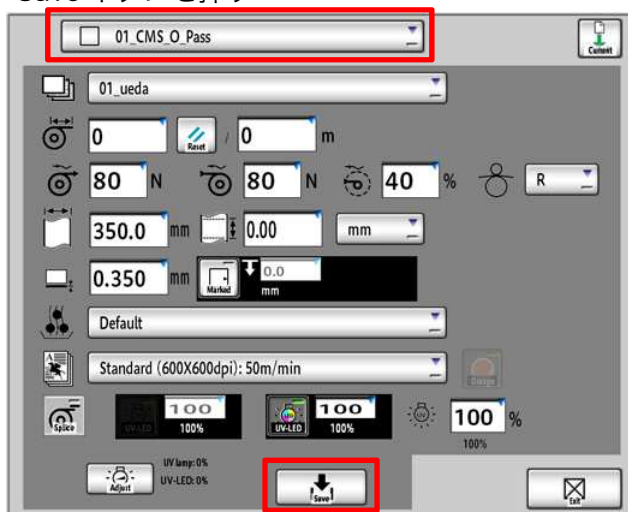
- EQUIOS サービスを停止
- エクスプローラで EQUIOS サーバマシン上の以下のファイルを削除  
 D:\EquiosCenter\proc\data\preference\Media\profile フォルダの
  - paramicclist.xml
  - paramdevlinklist.xml
- EQUIOS サービスを起動。  
このタイミングで EQUIOS のメディア管理 DB が修復されます。

#### <印刷条件のオレンジ出力情報の修復>

- コントローラで System ボタンをクリックし、Print Setting 画面を開く



- Print Setting 画面で、オレンジ出力情報が欠落した印刷条件をメニューから選択し、Save ボタンを押す



- 修復したい印刷条件が複数ある場合、2 の操作を繰り返す。
- Exit ボタンを押して Print Setting 画面を閉じる。  
このタイミングで EQUIOS のメディア管理 DB が修復されます。

### <コントローラ部>

- PCのシャットダウンについて  
PCのシャットダウンは月に1度は必ず実施してください。  
この時に、モニタ切り替えを使用し、2台のPCがシャットダウンしている事を確認してください。  
もし、シャットダウンが出来ていない場合は、Windowsの「スタート」メニューから「シャットダウン」を選択して頂き、シャットダウンを実施してください。
- ジョブ名、印刷設定名、基材名の使用禁止文字  
以下に示すWindows OS禁止文字などを使用できません。  
「\/:\*? "><|&」
- 連続印刷  
印刷設定、ジョブ設定（フラッシングパターン、後処理マーク）が同じジョブは連続印刷の対象となります。
- ジョブ削除時のログ

ジョブ削除時のログはジョブログに記載されます。(システムログには記載されません。)

- エラーメッセージについて  
警告メッセージ表示中にエラーが発生した場合は、メッセージが表示されません。ログで確認してください。
- トーンカーブについて  
ホワイト版対応前のバージョンで作成したトーンカーブをホワイト版が有るジョブに使用する場合は、編集後保存を行ってご利用ください。
- カラーバリエブル印刷について
  - マルチページ PDF をカラーバリエブル印刷にて速度 50/min で出力する場合、印字率が高いページが連続すると印刷途中で、ヘッド温度エラーで印刷停止する場合があります。この場合、印刷設定で印刷速度を 35m/min に変更して、印刷再開してください。更新してください。  
印刷済みの次のシートから 35m/min で印刷再開します。
  - 1 ページあたりの RIP 済みデータ容量が大きすぎるとプリンターへのデータ転送が印刷に間に合わず、印刷途中で停止する可能性があります。

以下、ページ送り長で印刷可能な 1 ページの RIP 済みデータ容量になります。

ページ送り長 (mm)	50.8	297	500	1000
1 色 1 ページの RIP 済みデータ容量 (MByte)	7.8	41.7	60.0	98.6

※1 ページの RIP 済みデータ容量は、色毎の総 RIP 済みデータ容量を RIP 済みページ数で割って算出してください。

※RIP 済みデータ容量はあくまで目安です。ジョブの中で 1 ページの RIP 済みデータ容量に偏りがあったり、RIP しながら印刷すると上記表の RIP 済みデータ容量でも停止することがあります。

この場合、

- 1) 同時 RIP をやめ、印刷のみ実行する。
- 2) 印刷速度を下げる。
- 3) 1 色の RIP 済みデータ容量が 5GByte 以下になるページ数に区切って印刷する。

という方法で印刷が可能になる場合があります。3) の方法では確実に印刷可能です。

また、1 色 1 ページあたりの RIP 済みデータ容量が 185MByte を超えるジョブは、印刷が開始できない、あるいは印刷途中で停止する可能性があります。

この場合、1 色の RIP 済みデータ容量が、3.6GByte 以下になるページ数に区切って印刷開始してください。

- 中間調濃度の調整機能について

- 中間調調整データを設定した後で目標濃度を変更した場合は、再度測定を行い、中間調調整データを更新してください。
- 中間調の濃度調整は、目標作成時の基材の紙白の濃度と調整対象の基材の紙白の濃度が一致するときに最も効果を発揮します。紙白の濃度が異なる場合はそれに合った目標値を準備してください。
- テーパー率について  
設定されたテーパー率にてRWテンション値が60N以上になる場合は、RWテンション値が60Nになるテーパー率にて動作します。
- インク量予測機能について
  - 現在の印刷条件（カレント印刷条件）ではなくジョブに設定されている印刷条件に基づいて見積りを行います。
  - 簡易見積りでは、データに小さい文字や細線を多く含む場合に誤差が大きくなる場合があります。
  - バリアブル印刷ジョブ（Black版、フルバリアブルとも）に対するインク量予測では、1ページ目のみの見積結果を基に印刷するページ数分の見積りを算出するため、誤差が大きくなる場合があります。
  - CSV保存ダイアログでフォルダパスを指定する場合、画面に表示されるキーボード上から「\」が入力できません。プリンターに接続されたキーボードから入力してください。
  - トーンカーブ調整で入力値0%部分を0以外に変更した場合、見積り結果の誤差が大きくなる場合があります。
- つなぎ補正について  
ジョブデータを使用したつなぎ補正機能は、印刷濃度均一化補正を行っています。その為、以下の点にご注意願います。
  - 連続印刷を行った場合は、先頭のジョブに適用された補正が採用され、2ジョブ目以降は先頭ジョブの補正で印刷されます。
  - 印刷濃度均一化補正を変更した場合は、再度テスト印刷にて確認してください。
  - 本機能でのテスト印刷はトーンカーブが反映されません。その為、本機能で補正を行う場合は、トーンカーブをデフォルトにしてご使用ください。

### <プリンター部>

- 基材ごとにアライメントデータを作成してください。  
厚みが同じ基材でも、基材の種類ごとに段差補正データを作成してください。
- ホワイトインク用ヘッドは、印刷品質維持のため、定期的にヘッド内洗浄動作を行うため、約 1L/月、ホワイトインクを消費します。
- 後処理マークの主走査方向サイズについて  
後処理マークの主走査方向サイズの設定は、0.4mm加算して設定してください。  
主走査方向は、設定値より約0.4mm小さく印刷されます。副走査方向は、設定値通りのサイズが印刷されます。
- 印刷開始時に、UV ランプの使用時間 100 時間毎に、ダイアログ表示します。  
例) 「2114-0601 UV ランプ総使用時間が 100 時間を超えました。」

- Black 版バリアブルデータの総データ量が 1GB 以上の場合、エラーが発生することがあります。(エラー：4001-0223 または、4003-0301)
  - ・ 出力ページ数を分割して印刷を行ってください。
  - ・ 印刷設定で50m/minを選択している場合は、35m/minに変更して印刷を行ってください
- 後処理マークを ON にして印刷した場合、ジョブ前後の処理マークだけを印刷しているシートにはラインフラッシングを印刷します。
- スプライスオプションを使用する場合は、基材とスプライステープがセンサー検知値として仕様範囲であることを確認の上、センサーの感度を設定してください。

誤検知が発生する基材では、スプライスオプションを使用することができません。そのような基材を使用する場合、スプライス部のない基材を準備し、スプライス検出を「OFF」に設定してください。
- 後加工機 JetConverter とのインライン/オフライン接続は、プリンターの電源を切って、Inline/Offline 切り替えスイッチを切り替えます。

Inline/Offline 切り替えスイッチを k 理替えた後、プリンターを再起動せずに搬送を行うと下記のエラーとなります。

「4000-0135 後加工機エラー  
プリンターを再起動してください。  
Inline/Offline 切り替えスイッチが変更されているため、搬送できません。」
- JetConverter の操作パネルにて停止を指示した場合に、プリンターの出口で基材がたるむ場合があります。
- プリンターが印刷または搬送中に、JetConverter の操作パネルから Remote Feed 操作はできません。
- JetConverter の操作パネルから Remote Feed 操作中に、プリンターで印刷または搬送を行った場合、下記のメッセージを表示し動作しません。

「2113-0264 インチング中は操作できません」
- JetConverter 接続時、プリンターにてインチング操作を行うとプリンターのみ搬送を行うため、プリンターの出口で基材がたるみます。
- 印刷や、基材搬送中にエラーが発生し緊急停止したとき、基材がプリンターの出口でたるみ RW 側 NIP ローラーに巻き込まれることがあります。

基材が RW 側 NIP ローラーに巻き込まれた状態で、印刷や基材搬送実行すると、RW 側からプリンター内に基材を逆搬送します。  
逆搬送した場合、下記エラーで停止します。

「4114-0284 基材が逆搬送されました。」
- JetConverter の PageCount 機能は使用しないでください。正しく動作しない場合があります。

- プリンタパラメータ（MCPU 基板の PARAM35）の設定により、印刷停止方法を切り替えます。

MCPU PARAM35	後加工機からの印刷停止	UIでの印刷停止	
0	Mode A	Mode A	*current mode
1	Mode B	Mode A	
2	Mode A	Mode B	
3	Mode B	Mode B	

- Mode A  
印刷停止した後、“後処理装置までの距離”で設定した距離分、基材を搬送します。
- Mode B  
印刷を停止した後、すぐに停止します。

# 6 演算互換性

---

- 透明の変換カラースペースの変更  
修正項目の【RIP出力】の「ImageMask+透明効果で発生するRIPの出力不正の修正」に記載している不具合に対応するため、今回のバージョンからRIP処理時にPDF内で指定されている「透明の変換カラースペース」を無視するように変更しました。この結果、「入力ファイルの設定を優先する」にチェックマークを付けている場合（高速処理モードの場合）はRGBデータの色味が変化します。「入力処理」の設定で「入力ファイルの設定を優先する」にチェックマークを付けていない場合は、RIP処理の演算互換性に問題はありません。

# 7 インストール前提条件

---

## <全体>

- インストール手順

全体のインストール作業は「TP-JL350UV Ver2.40JD003適用手順」を参照し、作業を実施してください。

Truepress JL350UV+  
Version 2.40EQ003  
Version 2.40JD003  
Version 2.40TP003  
Release Notice

No.

Oct. 2017  
SCREEN Graphic Solutions Co., Ltd